

| 科目分類  | 医療のコラボレーション教育  |         |    | 開講学科 | 看護学科  |
|---|--|---------|----|------|-------|
| 科目番号  | 学年   | 配当セメスター | 区分 | 単位数  | 授業時間数 |
| 18036   | 1  | 後期      | 必修 | 2    | 30    |
| 授業科目名<br>(英文)   | 体の仕組みと働きⅡ<br>(Anatomy and PhysiologyⅡ)   |         |    |      |       |
| 担当教員名   | 高野 海哉  |         |    |      |       |
| 授業の概要及び到達目標   |  |         |    |      |       |
| <p><b>【概要】</b><br/>「体の仕組みと働きⅠ」の続きの科目である。看護は人を対象にする専門職であるため、私たちの身体がどのような仕組みと働きを持っているのか正しく理解しておく必要がある。本科目は人体や人体を構成する器官・臓器について、正常な構造と働きに関する基本的な事項を学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b><br/>「体の仕組みと働きⅠ」に引き続き、今後看護学を学んでいく上で必要となる人体に関する知識を得ることと、人体を対象とする専門職者として人体に興味・関心を持ち自ら学習する姿勢が身につくこと。</p>  |  |         |    |      |       |
| 準備学習等   |  |         |    |      |       |
| <p><b>【受講する準備（予習）：授業1回分に対して30分】</b><br/>講義は次ページの「授業計画」に沿って行う予定である。予習として、「講義テキスト」と購入した参考図書において次回予定内容の該当項目を一読し、次回の授業内容を把握しておく。</p> <p><b>【受講】</b><br/>講義は授業形式で行われる。各回の授業は進度が早いので欠席すると内容理解が不十分となる可能性が高い。授業を受けた内容を「講義テキスト」にメモを取るなどして記録するようにし、後に復習できるようにする。</p> <p><b>【受講後の復習：授業1回分に対して30分】</b><br/>授業後の復習として、授業で「講義テキスト」に書き込んだメモなどを整理し、内容理解に努める。購入した参考図書で授業内容に該当する項目も読み、授業内容に追加して理解を深める。この段階で疑問点が生じた場合は、下記「参考図書」で調べるか、担当教員に質問して問題解決を図る。</p> |  |         |    |      |       |
| 成績評価の方法   | 定期試験 100%  |         |    |      |       |
| テキスト  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義テキスト（前期「体の仕組みと働きⅠ」で配布・使用したもの）</li> <li>・（基本を学ぶ看護シリーズ）2. からだの仕組みと働きを知る（高野海哉・川岸久太郎・草間朋子 著：東京化学同人）</li> </ul>  |         |    |      |       |
| 参考図書  | <ul style="list-style-type: none"> <li>※「系統看護学講座 専門基礎① 解剖生理学」（坂井建雄ほか著 医学書院）</li> <li>※「ナーシンググラフィカ① 解剖生理学」（林正健二編 メディカ出版）</li> <li>※「ロス&amp;ウィルソン 解剖生理学」（島田達生ほか監訳 西村書店）</li> <li>※「ヒューマンボディ 原著第3版」（片桐康雄ほか監訳 エルゼビアジャパン）</li> <li>※「臨床につながる解剖学イラストレイテッド」（松村譲児 著：羊土社）</li> <li>※「人体の構造と機能（第3版）」（佐藤昭夫ほか著：医歯薬出版）</li> </ul> |         |    |      |       |
| 備考  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同時期に開講される「基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ」を学ぶ上で必要となる解剖生理学的な知識を確認しながら、双方の講義・演習をリンクさせて学習すること</li> </ul>   |         |    |      |       |

|         |             | <p>とも念頭に置いて学習してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オフィスアワーについては、履修案内「オフィスアワー」の項目を参照にしてください。メール (k-takano@thcu.ac.jp) でいつでも質問などには対応します。</li> <li>・試験実施後に出題内容に関する解説を行い、答案は返却する予定です。</li> </ul> |
|---------|-------------|--|
| 授 業 計 画 |             |  |
| 第 1 回   | 循環器系        | 心臓のはたらき  |
| 第 2 回   |             | 血管のはたらき  |
| 第 3 回   | 呼吸器系        | 気道の特徴<br>肺胞におけるガス交換  |
| 第 4 回   |             | 血液によるガス運搬<br>呼吸の調節   |
| 第 5 回   | 神経系<br>感覚器系 | 脳のはたらき<br>脳室と脳脊髄液  |
| 第 6 回   |             | 情報の伝導路：体性感覚の伝導路<br>特殊感覚の伝導路と感覚器  |
| 第 7 回   |             | 脳神経のはたらき   |
| 第 8 回   | 消化器系        | 口腔の特徴<br>咀嚼と嚥下   |
| 第 9 回   |             | 腹膜・消化管の特徴<br>便の形成と排便   |
| 第 10 回  |             | 肝臓のはたらき<br>(講義テキスト § 8)  |
| 第 11 回  | 腎泌尿器系       | 腎臓による血圧の調節<br>腎臓と体液の調節①  |
| 第 12 回  |             | 腎臓と体液の調節②<br>排尿のしくみ  |
| 第 13 回  | 恒常性の維持      | 恒常性を維持する自律神経系・内分泌系のしくみ<br>(体温・血糖)  |
| 第 14 回  | 生殖器系        | 生殖器系の構造<br>生殖腺の働き (ホルモン分泌・配偶子形成)   |
| 第 15 回  |             | 受精と着床・胎盤と臍帯・胎児循環   |

